

## 令和2年度卒業式答辞

### 答辞

答辞 令和2年度、和歌山工業高等専門学校、卒業生を代表いたしまして、お礼とご挨拶を申し上げます。本日は、私達卒業生のために、このような場を設けていただき、誠にありがとうございます。卒業生一同、心よりお礼申し上げます。寒さも次第に緩み、やわらかな光が包み込む、春の訪れを感じられる季節となりました。

5年前、入学した頃の私たちは、新しい出会い、広い校舎、初めての寮生活に大きな不安と期待を募らせていました。勉学では、中学時代とは全く次元の異なる授業に圧倒され、初めてのテストでは高専の学習レベルの高さを痛感しました。自分の将来と向き合い、励み努力した日々。自由だからこそ戸惑い、迷い、悩んだ日々。先生方は厳しく、そして優しくご指導してくださいました。卒業するにあたり、長いようで短いようにも感じた和歌山高専で過ごした5年間を振り返ると、世間でも様々な出来事がありました。国内でいえば消費税増税、毎年のように起こる自然災害、環境問題、いつのまにか年号も平成から令和へと変わりました。直近では、新型コロナウイルスの話題をひっきりなしに見聞きします。自分の高専生活は、そんな世の中の一部に過ぎませんが、恵まれた環境のもと、自分で選択を繰り返す日々は、中身の詰まったものだった、という実感が押し寄せています。

自主及び自律の精神が尊重された高専の素晴らしい環境だからこそ、主体的に取り組む今の私たちがいます。同じ志を持った友人との出会いはかけがえのない思い出と共に、技術者として求められている豊かな創造性を得ることができました。卒業に際して喜びを

覚える一方、友人との別れに寂しさを感じずにはられません。私達は今日、この学び舎を巣立ち、これからの時代を担う技術者として、一人ひとりがそれぞれの道を進んでいきます。

まだまだ未熟な私達ですが、本日無事に卒業の日を迎えることができました。これまで熱心にご指導いただき、私たちの可能性を広げてくださいました先生方、様々な活動を行うための環境を整えてくださった職員の皆様、苦楽を共にした友人たちに、改めてお礼申し上げます。そして、今日まで私たちの成長を温かく時には厳しく、見守り、励まし、支えてくださった家族に心より感謝しています。名残りは尽きませんが、皆様のますますのご活躍とご多幸をお祈りすると共に、和歌山高専のより一層のご発展を祈念致しまして、答辞とさせていただきます。

令和3年 3月18日 卒業生代表 嶋田 唯楓